

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道55号 <small>なんこくあき</small> 南国安芸道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 四国地方整備局
起終点 自：高知県南国市物部 <small>なんこくしものべ</small> 至：高知県安芸郡芸西村西分 <small>あきぐんげいせいむらにしぶん</small>	延長 12.5km	
事業概要 一般国道55号 南国安芸道路は、高規格幹線道路網を構成する自動車専用道路として整備される高知東部自動車道の一部であり、四国横断自動車道及び阿南安芸自動車道と一体的に機能することにより、四国8の字ネットワークを形成し、高知県東部の広域交流の促進および地域の活性化に大きく寄与する道路である。 また、東南海・南海地震などの災害発生時の代替路としての役割も担っており、更には国道55号で発生している慢性的な交通渋滞の解消や、地域間の円滑な交通流動の確保を目的としている。		
H12年度事業化	H11年度都市計画決定 (H22年度変更)	H14年度用地着手
全体事業費 約596億円 事業進捗率 約46% 供用済延長 3.9km		H15年度工事着手
計画交通量 13,300~22,500台/日 [現況+事業化済み箇所を考慮したネットワークによるもの]		
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 5.0	総費用 (残事業)/事業全体 219/564億円 (事業費：199/538億円) (維持管理費：20/26億円)	総便益 (残事業)/事業全体 1103/1424億円 (走行時間短縮便益：932/1213億円) (走行経費減少便益：110/143億円) (交通事故減少便益：61/68億円)
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C=2.2~3.0 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=4.2~5.9 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=2.4~2.6 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=4.6~5.5 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=2.6~2.6 (事業期間 ±20%) 事業期間 : B/C=5.1~5.1 (事業期間 ±20%)		
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の時間損失の削減が見込まれる ・混雑区間の旅行速度の向上が見込まれる ・現道等のバス路線の利便性や快適性の向上が見込まれる ・安芸市等から後免駅へのアクセス向上が見込まれる ・安芸市等から高知龍馬空港へのアクセス向上が見込まれる ②物流効率化の支援 ・高知県東部における農林水産品（ゆず、なす、サバ、ブリ等）の流通の利便性向上が見込まれる ③国土・地域ネットワークの構築 ・高知市（中央地方生活圏中心都市）から安芸市（安芸地方生活圏中心都市）を連絡する高規格幹線道路の一部を構成する ・高知市（中央地方生活圏中心都市）から安芸市（安芸地方生活圏中心都市）を最短時間で連絡する路線を構成する ・香南市等から高知市（中央地方生活圏中心都市）へのアクセス向上が見込まれる ④個性ある地域の形成 ・香南市・安芸市・室戸市：観光振興プロジェクト、安芸市：過疎地域自立促進プロジェクト、北川村：ゆず振興プロジェクトを支援する ・高知県東部の観光地へのアクセス向上が期待される ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・安芸市から第三次救急医療施設へのアクセス向上が見込まれる ⑦災害への備え ・香南市夜須町、芸西村の集落の孤立を解消する ・国道55号は第一次緊急輸送道路に位置付けられている ・現道である国道55号が浸水等により通行止めになった場合の代替路を形成 ⑧地球環境の保全		

- ・CO2排出量の削減が見込まれる
- ⑨生活環境の改善・保全
- ・NO2排出量の削減が見込まれる
- ・SPM排出量の削減が見込まれる

⑩その他

- ・「東南海・南海地震」における救援ルートの信頼性の向上、「東南海・南海地震」における自衛隊救援活動ルートの確保

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟より、積極的な整備促進について要望活動が続けられている。

県知事の意見：

- ・事業継続に異議ありません。一般国道55号南国安芸道路は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であり、常日頃はもとより、将来、必ず襲って来る南海地震時には、救命・救急活動や緊急輸送のための「命の道」として、また、地域間連携、物流機能の強化を図るうえでも重要な路線であり、地域住民もその完成に期待を寄せています。そのため、国においては、早期の供用を目指し、より一層の事業進捗をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

①周辺道路の整備状況

(高速道路)	平成20年7月	四国横断自動車道（新宮IC～大豊IC）	L=18.3km	4車線供用
	平成20年7月	四国横断自動車道（南国IC～高知IC）	L=7.6km	4車線供用
	平成22年6月	高速道路無料化社会実験（高知IC～須崎東IC）		実施
	平成23年6月	高速道路無料化社会実験（高知IC～須崎東IC）		一時凍結
	平成23年3月	高知東部自動車道（香南やすIC～芸西西IC）	L=3.9km	2車線供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地取得率約69%、事業進捗率約46%となっている。(H23年度末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在、平成23年度末時点の用地取得率が全体で69%であり、3工区の香南かがみ～香南やす間は平成24年度の暫定2車線供用、また2工区の香南のいち～香南かがみ間は平成25年度供用を目標とし、事業を推進している。

施設の構造や工法の変更等

今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。